

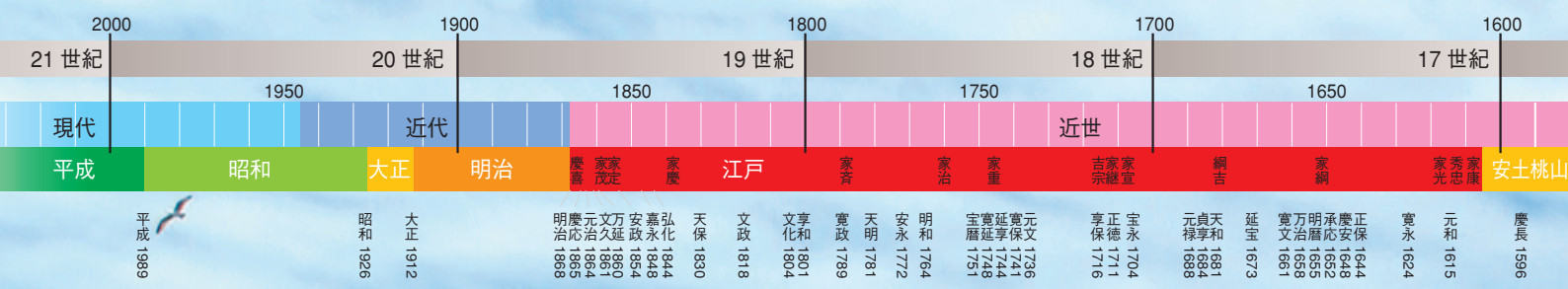
# 舟運気分

江戸時代後期の大航海ネットワークは、モノの流通を助け、庶民の衣食住を大きく変えました。

この時代に活躍した商人たちは、ベンチャー精神旺盛な人たちでした。彼らの波乱万丈な人生は、歌にしても小説にしても充分な魅力を持つ物語です。江戸時代にあつては最速の輸送手段だった舟運は、そんな商人の野心をかなえ、庶民の健全な欲望を満たす物流の花形として君臨していました。

しかし、いつのころからかこうした商人の息遣いも、危険を冒して航海に出る船の姿も、私たちの目に見えにくくなっていきました。私たちの生活に必要な物資を運ぶ舟運が、まるで衰退してしまつたかのような誤解さえ生まれています。

「急がないものはゆっくり運ぶ」「ゆっくり運ぶものを増やす」という流通の仕組みの再編成は、環境モーターシフトの可能性を期待させます。そして「運ばなくてもいいものは運ばない」という選択も、人とモノの関係を回復させるための新しい流れを生むことにつながるのではないのでしょうか。



## 水の文化25号 2007年2月 特集「舟運気分」

江戸後期三大航海圏と商いの世界  
**全国市場を支えた船・商人・港** 斎藤善之 4

江戸後期から現代に至る商いの満ち  
**三陸水産資源盛衰史** 高橋美貴 14

水の文化実習実践取材  
**商人の港、日本橋界限** 編集部 18

水の文化実習実践取材  
**八丁味噌 社史からわかる老舗の知恵** 編集部 30

商いの公用語は江州弁  
**近江商人の陸の商い** 宇佐美英機 36

港から見えてくるヨーロッパ文明の形成過程  
**沿岸港と河口内港** 深沢克己 40

みずたより  
**スウェーデンの水景色** 川上麻衣子 44

文化をつくる  
**舟運気分** 編集部 46

水の文化書誌  
**河川舟運** 古賀邦雄 48

ミツカン水の文化交流フォーラム2006  
**インフォメーション** 51